

欧州リーグにおいて外国籍選手の比率とナショナルチームの成績に関連性はあるのか

Do the rate of foreign players in European soccer leagues influence the result of national soccer teams?

1K08B238-5 吉村亮

指導教員 主査：石井昌幸先生 副査：寒川恒夫先生

#### 【目的】

近年欧州のサッカーのリーグは、年々レベルを上げており、見る者を魅了している。それは、ヨーロッパの主要リーグに世界中から優秀な選手が集まってくるからに他ならない。しかし、そうした仕組みがマイナスに作用することもあり得ると私は最近感じていた。クラブが外国から優秀な選手をつれてくることでクラブは強化を図るのであるが、それによって自国の選手の活躍の場が奪われ、最終的にその国代表チームの弱体化につながってしまうという現象が起きている。つまり、クラブの多国籍化という現象だ。こうした事態に各国のリーグやFIFA,WEFAは警鐘を鳴らしている。

私は、外国籍選手がヨーロッパリーグに集まるきっかけとなった出来事を探り、多国籍化が起こった経緯を辿っていくと共に、欧州の主要リーグにおいて、本当に外国籍選手の割合が高いとその国の代表チームの成績が振るわなくなるのかどうかを検証してみたいと思った。また、多国籍化という問題に向き合うに当たりどのような対策が必要なのかを調べたいと思い、このテーマを設定することにした。

#### 【方法】

書籍を通じて、1995年に起こったボスマン判決以降、欧州リーグでの実質的な移籍の自由化がなされた後の変遷を調べ、加えて多国籍化によって起こる問題点も調べた。また、2000~2010年までの欧州サッカーリーグの選手名鑑を調べ、スペイン、イングランド、ドイツ、イタリアの主要リーグのシーズン毎の自国選手の比率、ビッグクラブの選手比率、代表チームへの選出数やユース出身者の人数をデータ化し、表を作成した。加えて、上記の4か国の1996~2010年までの主要な国際大会における代表チームの成績を調べ、各リーグをデータ化した表と比較し、4か国それぞれ、外国籍選手の比率やユース出身者数、ビッグクラブ

の代表選出者数と代表チームの成績に関連性があるのかどうかを調べた。そして、4か国の相違点や共通点をまとめた。

#### 【結果】

欧州の主要4か国のリーグにおいて、外国籍選手の比率とナショナルチームの成績に因果関係は見られなかった。しかし、4か国に共通して、各国のビッグクラブの代表選出数が多いシーズンは、その年の主要国際大会における代表チームの成績が良いという結果が表れ、逆に、ビッグクラブの代表選出数が低いシーズンは、代表チーム成績が振るわないという結果が出た。

#### 【考察】

結果として、外国籍選手の比率が高いからといって、必ずしも代表チームの成績に悪影響を与えるというわけではなかった。しかし、各国の代表チームの成績は、各国リーグのビッグクラブからの代表選出数に依存しているところが大きく、その点で、ビッグクラブで優秀な自国の選手が育たない場合、代表チームの成績に悪影響を与えるとと言える。多国籍化は、不可避な現象と言えるが、過剰なまでの多国籍化はやはりデメリットを被ると言わざるを得ない。多国籍化に晒されている中で、スペインのバルセロナ育成メソッドや、ドイツのブンデスリーガの育成改革は成果を挙げており、クラブチームの強化を図り、なおかつそれを自国の代表チームの強化につなげるには、育成システムの充実というのがキーワードになりうると言える。大枚をはたいて外国の大物選手を獲得するという時代から転換を図るために、各国のサッカー協会や、FIFA、WEFAなどが指導的立場に立って、クラブや各国代表を導いていく必要があるようだ。

